

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成30年度）

— 研究課題 2 中学校 —

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
-------------	---	------------	-----

公立 ・ 私立 ・ 国立 (○で囲む)

1 研究指定校の概要

ふりがな 学校名	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくはこだてちゅうがっこう 北海道教育大学附属函館中学校				ふりがな 校長氏名	かねみつ ひでお 金光 秀雄
所在地	〒041-0806 北海道函館市美原3丁目48番6号 電話 0138-46-2233 FAX 0138-47-6769 E-mail kimura.nana@h.hokkyodai.ac.jp					
(H30.4.1見込)	1年	2年	3年	計	(H30.4.1見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む)	
学級数	3	3	3	9	教員数 18名	
生徒数	104	103	109	316	[調査研究にかかわる教科等の教員数] 3名	
特記事項						

2 研究主題等

教科等名	数学	教科課題番号等	1
学校における 研究主題	思考力、判断力、表現力等の育成を図るための具体的な授業の在り方と評価方法等の実践研究 ～数学的活動への取組を促し、新たな疑問や問いを導き出すための単元構成の工夫・改善～		

3 平成29年度の成果と課題

<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを工夫して活用することで、生徒から発生する「新たな疑問や問い」の質の高まりや変容を見取ることができた。 ○生徒の「新たな疑問や問い」と次時の学習課題とを繋げることで、生徒の思考の過程との結びつきが強化された単元の指導計画を作成することができた。 ○生徒の内面から発生させたい「新たな疑問や問い」を教師側の発問とし、意図的に疑問や問いの視点を与え続けることで、生徒自身が数学的な見方・考え方を働かせた疑問や問いを生み出せるようになった。 ●生徒の内的な「新たな疑問や問い」の質や量の向上について、どの取組内容がどれだけ有効なのか、整理・分析する必要がある。 ●問題解決の過程のどの場面でどのような「新たな疑問や問い」が発生しやすいのか、整理・分析をし、疑問や問いを生み出す過程が、より生徒による主体的な活動となるよう手立ての改善を図る必要がある。 ●ワークシートの活用により、生徒から「新たな疑問や問い」を生み出すことはできたが、その疑問や問いを、主体的に解決しようとする態度や、次の問題解決に向かうための時間や場面の確保には工夫が必要である。

4 平成30年度の研究計画

(1) 本年度の研究の重点等

<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な問題発見・解決の過程において、生徒が主体的・意欲的に「新たな疑問や問い」を生み出せるための手立てをより充実させていく。その際、生徒の学習の深まりの変容を見取ることが出来る生徒質問紙やワークシートの作成・分析を行い、有効な手立ての検証を行う。 ・生み出された「新たな疑問や問い」を自身で解決させるために必要な知識及び技能等を再整理した上で、生徒の「新たな疑問や問い」を促す学習課題で繋がる単元の指導計画を作成する。
--

(2) 研究計画

実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等
4～10月	<ul style="list-style-type: none"> 1年次の実践を踏まえて, 生徒が主体的・意欲的に「新たな疑問や問い」を生み出せるための手立てをより充実させる。 1年次の実践を踏まえた年間指導計画や単元の指導計画の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 授業実践により, 手立ての有効性を明らかにすることができる。 1年次の実践を踏まえた単元の指導計画の見直し等により, 単元のつながりや各単元の役割を一層意識した授業展開の工夫・改善が図ることができる。
6月	<ul style="list-style-type: none"> 教育研究大会の実施及び年間指導計画に基づく授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開及び研究発表を行い, 全国の公立中学校や他附属との交流を通して, 本研究の成果と課題を明らかにすることができる。
7月・12月	<ul style="list-style-type: none"> 生徒へのアンケート調査の実施・分析 	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果から, 本研究の成果と課題を明らかにすることができる。
11月・2月	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開を行い, 全国の公立中学校や他附属との交流を通して, 本研究の成果と課題を明らかにすることができる。
11～3月	<ul style="list-style-type: none"> 単元の指導計画に基づく授業実践及び研究成果の検証 「平成30年度教育課程研究指定校事業」まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートやレポートの記述内容から, 1年次の実施と比較して学習者の学習内容の深まりの変容を見取ることができる。

5 研究のまとめの見通し

<p><期待される成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の「新たな疑問や問い」を促す学習課題や発問が整理され, 具体的に追試が可能になる単元の指導計画を作成することができる。 「新たな疑問や問い」を生み出したあとの学習過程にも重点を置いた授業実践を行うことで, 数学的な問題発見・解決の過程においてより効果的に「新たな疑問や問い」を生み出すことができる。 <p><研究成果の検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな疑問や問いが学習者の問題解決の過程において意欲的に導き出され, 追究できるものであったかについては, ワークシートへの記述状況や学習者への質問紙調査等を用いる。 評価方法については, 本校研究部及び数学科に加え, 大学や関係機関等との協議・検討を行う。 <p><研究成果等の普及></p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな疑問や問いを導き出すための単元構成の具体例や実践事例, 評価関係資料などの成果について, 本校ホームページで広く公開する。 北海道教育大学が平成23年度から取り組んでいる「授業力向上セミナー」と連動し, その成果の普及を図る。
